

第13回原子力安全検証委員会 いただいたご意見等

「高浜発電所2号機クレーン倒壊の対応」について、各検証委員へ持回って報告し、第12回検証委員会に検証委員からいただいたご意見等を踏まえた対策になっているとご理解、およびご了解をいただいた。主なご意見等は以下の通り。

- 再発防止対策・安全文化評価に基づく対策の説明に当たっては、これまで実施してきた対策、そして今回のクレーン事故を踏まえて、どのような観点から、新たな対策を加えたか、その進捗の程度はどのようになっているかを、具体的に、わかりやすく説明することが大事である。（渡邊委員長）
- 再発防止策がしっかりと納されている。一方、リスクには、原子力安全に対するリスクだけでなく、今回のクレーン倒壊のように社会から信頼を損なうリスク等、質の違うものがある。リスク毎の特質を考えそれに見合った適正な、リスク管理やリスク感受性を向上させるための教育を工夫することが必要である。（山口副委員長）
- 人間が一度に処理できる情報には限界がある。安全に関してこれはという肝のところを的確に見極め、これは絶対に外せないというものと、周辺部分のメリハリをつけることが必要である。今回でいえば、現場に多数風速計を取り付けるが、工事終了後、不要になったら取り外し、メリハリをつけることで問題ないと考えられる。（安部委員）
- 今回の事故では、クレーン転倒直前に急激な風速の変化が記録されている。このような急激な風速の変化に迅速に対応できるよう、気象情報を積極的に入手し警報発信時の早い段階で警報準備体制を立ち上げて、協力会社と連携しながら対処するという仕組みの改善が図られようとしている。今後、訓練などによって、この仕組みの実効性を高めることが重要である。（岩崎委員）
- 再発防止対策にしっかりと取り組んでいるので、その状況について一般の方々にわかりやすくお伝えすることが大事である。（加賀委員）
- 原子力安全については、設備対策もさることながら、現場の人材を育成し、想像力や感性を培っていくことが何よりも大切である。（橋詰委員）

以 上